龍村人民倶楽部

発行人 木下 右治
編集人 編集部
印刷所 信州印刷KK

待望の田園都市実現するか

飯田周辺一市一町五ケ村

◇……わが龍丘村がかねてから高調して来た大飯田市実現がいよいよ胎動……◇
◇……して来た。わが龍丘村が六月五日大飯田市実現を前提とする、松尾……◇
◇……との単独合併を議決したことが契機となり、鼎町と伊賀良とが相寄……◇
◇……り、上郷村と座光寺とが相謀り、機熟してか、一躍ここに大飯田市……◇
◇……が実現しそうな曙光が見えだしたのだ。

その経過を見ると、六月五日笠原地方事務所長は、鼎町・伊賀良・龍丘・松尾・上郷・座光寺各村長及議長を招き、一市一町五ケ村の大同合併を要請した。

六月十一日鼎町・伊賀良村正副議長は龍丘村・松尾村を訪ね、十二日には上郷・座光寺村を訪れ、大合併について検討するよう申込まれた。

ここに於て各村は真剣にこの問題を取り上げて検討し、村民与論の結集をはかっている。笠原事務所長は十八日再び関係町村の責任者を招いてその成立を勧奨した。

その結果次のような申合せが成立した。

一、一町五ケ村は田園都市の実現を期する目的をもって、共に手をたづさえ合併計画を推進する。

一、田園都市建設研究委員会を設ける。その構成は村長・助役・総務課長・正副議長・総務委員長とする。なお小委員会をつくる。小委員は各町村三名宛とする。（六月十八日現在）

松尾村との合併方針決る

申合事項

一、松尾村と龍丘村と合併する。但し大飯田市が建設される場合はこれに参加することを前提とする。

二、九月までに飯田隣接町村が飯田市と合併する場合はこれに参加する。九月までにそれが実現しない場合は、それ以後に於ても大飯田市が成立する場合はこれに参加する。

三、中学校は松尾村と龍丘村とのみにて統合中学校を建設する。（下久堅村を加えない）

右の条項を内容とする両村の合併方針が両村の議会に於て決定されたのである。

経過

五、一五 合併拡大委員会が学校記念館にて開催され、村理事者及村議員は拡大委員の意見を聴取した。

五、一八 合併対策委員会開催 北方（松尾）合併案と南方（川路）合併案と共に研究すべきであるということとなり、その具体案をつくることを村議会に一任することゝなる。

五、二三 村会開会 議会議員に合併対策小委員を加え、之を二班とし、明日松尾村と川路村を訪ね、左の三項目に就て研究調査することゝなる。

一、大飯田市建設とのつながりをどう考えているか。

二、隣村との関係をどう考えているか（松尾村と下久堅村との関係、川路村と三穂村龍江村等との関係）

三、中学校整備をどう考えるか

五、二三 松尾村及川路村を訪問 午前中に議員は合併小委員を加え、二班にわかれて松尾村、川路村を訪問し、前日きめた事項に就き研究調査した。

合併対策委員会 午後開会

一、午前中に松尾、川路両村を訪問して研究調査した事項の報告をきいた。

二、委員会の結論

1、これ以上日を経過すれば各区の感情的対立が深刻となるのみだから、急速に合併の方針を決定すべきである。

2、合併の原案を委員長（村長）副委員長（議長）から出して、議会に於て決定してほしい。

村会 夜開催

村長、議長は原案を提出

1、松尾村と龍丘村と合併する但し将来大飯田市が成立す

四月本村の中学校教育を担当する命を受けて、こちらへ御厄介になってから、早くも二ケ月が過ぎました。

転任して来る時、管理主事を始め多くの人々から、中学校設立の課題がある旨の話を聞き、之がスムースに進展されん事を念じて参った次第です。

着任してから、幾つかの会合にお顔出しをし、又巷間耳にする意見等から、町村合併に対する村内の意見には相当の隔りがあるように伺っていました。然し其の間、何れの意見にあっても、中学校の設立は既定の事として語られている事を拝聴するに及んで、之は必ず、やがては意見が統一して来るに違いないが、しばらくの時を要するのであろう。それにしても、松尾との統合が不可と云うことになれば、相当の年数を要する事が必定にならざるを得ない（過去幾地のない所と思います。本郡でも松尾以北は殆んど独立の中学校になっている事は申すまでもない事です。

次に中学校の特質と云う点に少しふれて見ます。

一体小学校六年生と中学一年生との間に一線を引いて制度上明らかに小中学校を区別した所以はそ

新任の挨拶

羽場敬喜

ならば、中学に応しい独立の校舎と施設のもとに、中学校の特質にかなう教育の充実を計ると云うのが必然の動向であることは疑う余が必要であると思います。

下伊那の現状では、小中学校が同一の地籍に棟を並べてやっている所が今尚多い現状ですが、今後中学校教育の進展の見通しをすると云うことです。

以上の事から中学校は義務教育の仕上げの場であり、やがて卒業して社会人となる職業人の養成機関であり、就職指導斡旋の機関であり、又進学志望者にとっては、進学の指導機関でもあると云う多角な中学校教育の課題が出て来ます。こうした事から考えまして、今日の学校制度の中で私は中学校教育が一番複雑であり、至難であり、その故に極めて重要であると考えています。

公民館から、何か新任の辞を記すようにとの通知を受けまして、本村の統合中学校設立の議が決したとのことをお聞きいたしまして、何か不思議な感がいたしました。長い間、研究討議された決論であるこの（龍丘村は下久堅村を加える事は賛成出来ない）松尾村の再考を促すこととなる。

五、二九 対策委員会

一、松尾村より回答のあった事項の報告をきゝ、之について研究した。

龍丘村としては、下久堅村を中学校整備に参加させる事をことわることを再確認した。

六、一 松尾村より村長、助役、正副議長等来村し、本村側は議長、総務委員全員出席し、中学校整備に就き下久堅を組合立として参加させるか否かについて協議した結果、まづ両村にて合併し、統合中学校を建設しそれ以後に於て下久堅村の参加に就ては研究検討すること。

統合中学校建設申請書を県へ提出する期限は六月六日までであるから、両村議会はそれまでに合併を前提とする中学建設の議決をするようお互に努力することを申し合せた。

六、三 村会開催

六、一両町代表の懇談にもとずき中学校建設申請を六月六日までに提出するには、議会に於て議決を要するので、これに就て検討した。

六、四 村会と時又区代表と懇談 松尾村と合併し、中学校を建設することを時又が反対しているので、村会は時又代表と懇談した。

六、五 合併対策委員会 午前中

六、一松尾村代表が本村に来談した事項を報告し、それに就て検討した。

（午後村長議長は下伊那地方事務所長の招集による一市一町五ケ村合併研究懇談会に出席）

村会 夜八時より開会

翌日午前二時に至り、遂に村会に於て、松尾村と合併することを前提として統合中学校を建設することを議決した。

時又の水道施設工事始まる

時又新川以北ではいよ〜上水道工事に着手した。水源は新川に求め之を電力にて上げ、カルニューの蓄水用漕を借る。目下六〇戸の加入者があり、予算は概算一八〇万円である。

【写真は工事現場】

凍霜害対策

凍霜害対策委員会設置

五月七日対策委員会を設置することとなり、委員長に村長が、副委員長に議会議長農協組合長、農委会長が、委員に議会議員農協理事、農業委員がそれぞれ就任した。

尚凍霜害対策として必要な場合は村費を二十万程度迄支出することが出来るよう村議会で協議した。

郡下の被害額 七億五千万円
本村の被害額 二千二百余万円
営農資金借入れ 七百万円

営農資金の借入れに就ては、六月七日役場にて凍霜害対策委員が協議した結果応急資金は村に五〇万円の内示があったが、本資金が割合早期に貸付けられる見込みとの情報もあり、貸付けの内容に就ては、本資金が来るまでということになっており、五〇万円では個人に割当てるには困るような少額であるので、本資金の貸付けを待つことに決定した。

本資金の借入れ額に就ては、被害額から考え七百万円と決定して直に当局へ申し込んだ。現在の見透しでは希望額に近い額が融資される見込みである。

災害果切り策

今後凍霜害による収入減により年末から来春にかけて、生活必要経費に事欠く様な事態も予想されるので、村としては鋭意対策を研究中であるが、先ず養豚を導入して、馬鈴薯、甘藷を中心とした農場廃棄物により、年末から明春までに成豚として現金収入のおぎないとしたり、救農土木事業や、家庭内職の斡旋も考えている。

論説

凍霜害を省みて

六月の声を聞いてやっと村も緑に包まれた。だが農民の表情は暗い本年の気象状況は言伝の天明の飢饉に似ているとか。昭和二十八年の凶作の痛手の癒えない上にそれ以上の凍霜害に見舞われ、尚かつ其の後の気象の条件が悪く植付けた作物の発育も遅々としている。

天災による経済的農民圧迫はどうにもならぬと諦めてよいものか、生産コストの切下げをし、尚骨までしゃぶって生活して行かねばならぬと云うのか、土を捨てれば他に生活の途とて無い農民なのだ。こゝで死に物狂で打開の方途を考えなければならぬ。

まづ第一その日を省る必要があるあの四月二十九日の凍霜害に各自はどう対処したか、村の指導機関は報道に万全を期していたか、龍丘村のあの夜はいやに冷めたい静かな黎明ではなかったろうか。お互の胸に手をあてゝ今後の資としたい。

「お天道様任せ」の農業にも近代科学のメスは入れられ、急激な進歩はしつゝあるものゝ天災を未然に阻止する事は出来得ないので之に対処出来得る農業のあり方を考える必要がある。それには凍霜害後に於ける村内各農家の経営上から見た経済の動向及び状態等を調査参考の必要もあろうし、それより生れるものは農業の多角と農業の企業化であると思われるので、村の指導機関はあげてその線に今一段と実践に活動すべきだが貧乏な村の指導陣には一抹のさみしさを味わう。この実践には相当の投資の必要がある。農民お互の団結の力により経済的協力を政治力による方法が緊急である。

村は乏しい財政の予備費から二十万円を凍霜害対策費として計上したとか、最もうるおいのある糧となる事が望ましい。

現在の政治が農民を貧しくする農業政策が行われておる為か、度々の災害で困窮のどん底へ追い込まれ、経営形態によって貧富の差を一層と激化してゆくのが日本農業の現状である。これ等に打勝つ事は農民自体の自覚と社会的地位の向上を計り、協同の力でより高い生活向上のために矛盾せる現状を突き破らなければならぬ、そのためにはよりよい村づくりが必要である。したがって町村合併と併行して農業団体も統合団結合併をすべきであり、その基盤のもとに新町村の合併が建設されんことを念願する。（S）

参議院議員選挙 投票日 七月八日

政治は私たちの生活の中にあります。参議員通常選挙には、皆揃って投票して下さい。参議院は全国民を代表する議員をもって構成されているもので、衆議院と共に国政を審議する重要な機関であります。

今国の選挙は昭和二十五年に選挙された議員（地方選出七五人、全国選出五〇人）が任期満了となり、改選されるものでありますから、その重要性を十分認識して、棄権することなく、真に公明な投票をして頂きたう御座います。

龍丘村公明選挙推進委員会

雑感拾話

日がたてばたつほど北部西部の相容れない部落意識が高まるのみで、村内統一与論の結果はむずかしくなるのを憂えて村会は合併方針を強行した。与論を無視した専断であると村民が怒るのも無理はない。

議会は言う。何もぬき打ち的に敢行したのではない。時は来ていた熟していた。龍丘が態度をきめてこそ飯田周辺の町村の態度がきまるのだと。

町村会併が優先だのに松尾と中学校を建設するのに調印するとは何ごとだと怒るのも無理はない。当局は言う。三十一年度の建設の申請期限が六月六日と日が限られていたから本村としても、それに間に合うようにしたのであると。

すべて相手村に引きづられるのではないか、いびられるのではないかという杞憂も根の無いことではない。相手に引きづられる心配は無いかと当局者に念をおしたい分村という声がチラ〜するが、分村とはそんなにお安いものなのか。小を捨てて大につく、村意識や部落意識を棄てて強力な自治体を構成しようとする新生活意識の上にのみこの難事業は成立する。小さな部落意識に凝りかたまることとはよほど縁遠い感覚ではあるまいか。

新生活運動

蚊とはえの居ない生活

＝写真は梅雨あけ＝

本村の環境衛生「蚊とはえの撲滅運動」はすばらしい成績を示した。この運動の中心となったのは青年会であり、婦人会も協力し、村当局も衛生協力委員も本気となって努力した。したがって春の清潔検査もこの点が中心となって行われた。

この運動の第一年度の目標を便所の防はえ措置に置いた。便所のまわりをコンクリート或はたたきにかてため、窓には金網をはり、汲み取り口を完全にしてはえの出入を防ぐ措置に努力した。

役場衛生係の調査によると、左のような成績を示している。

部落別	便所の数	完全措置	不完全措置	半分位措置	完全措置百分率
駄科	三三六	一四三	一八	一六五	四三%
長野原	七五	三〇	五	四〇	四〇%
時又	二八一	一二五	四八	一〇八	四五%
桐林	二四二	一三四	二九	七九	五五%
上川路	一一四	二七	一九	六八	二四%

猶青年会は独自の詳細な調査を行い、機関新聞「丘の青年」に掲げている。

＝てせに寄に運動活新生＝

「百万円の宝籤より、手近かな福音」

◇　◇

部突飛なことに違いない大凡読まんでもわかる、と云われるであろうが、世の中には奇蹟と云う語があるし百万円の宝籤だって誰か当ってニヤリとしている若かりし頃何かと云うとやれ文化生活、やれ文化の丘と云ったが而し世は文化街道をアイーダーの大行進曲の如く行進し続けて来た日本の流れも大東亜戦と云う空白はあったが、津々浦々にラジオは普及され、世界の出来ごとは其の日の内に報道されるし、テレビによってそのあり様が目のあたりに見ることが出来る。のみならず世は原子時代に入り、オートメーション時代が来て人間など働かないで思う物がいくらでも出来る世の中が来た。だがしかし現代の世の中ではこれ等の品物がたゞでころがり込んで来る訳ではない。とりわけ日本の如く天然資源に乏しい国ではなおさらである。そこで生活を合理化して、重点的にこの恩恵に浴したいと云うのが、新生活運動のねらいである。本来人間は働かなんで良い家に住み、甘味い物を食べ、明けても暮れてもワッショイ〜〜お祭りだ〜で暮したいものである。それが出来ないからせめてもと願うのが新生活運動であってなさけない限りである。新生活運動はやがて来るワッショイ〜〜の前夜祭や近代生活への陣痛である。

新生活運動を積極的と消極的に分けることが出来る。積極的に考えると国土に釣り合の取れた人口で家庭的には計画産児とか家族計画をたてるとか云うことで、今後に展開される**長**問題であるが。生活より増せよから一気に姙娠調節とは敗戦の置き土産である。

消極的には現在の枠内でどのように合理的に処理するかと云うことであるが、この新生活運動の重点的指向は、何と云っても冠婚葬祭である。このことは今迄も「生活改善」等の語を以ってしば〜〜取り上げられたが、其の都度龍頭蛇尾に終った。何故かゝる結果に終ったかと云えば、冠婚葬祭は人生として非常に意義深いことで軽々しく出来ないからでもあるが、革新的決意に欠けていたからである。正に革新的行為なくしてはゆり返しの方が大きく、一歩前進二歩後退で、新生活〆新生活との掛声に輩べて最近の結婚式を見るとその綿爛豪華は一体何としたことか。綿爛豪華は尊い、而し現農村の収入を以って之を繰返すなれば、農村の破綻は火を見るより明かである。こゝに飛躍的な決意が必要である。結婚は人生の門出であり、葬儀は人生終えんの式典で共に冷厳おごそかでなくてはならない。

結婚

結婚の本質はAなる男性とBなる女性の結び付に尽きる。其の他は伴奏である。現在行われている結婚は其の他の要素が多分に含まれている。淀君は親の兵に殺された大なり小なり其の気なしとしない又あの豪勢さは二界に家なしと云った送葬曲のようでもある。現代男と女は同権である。そこでわれわれは結婚の本質に起ち返ろうではないか。即ち公民館の請負結婚式として村全体の者がAとBに非常な祝福を送り、併せて厳粛の内に経済的で本質的な結婚式を行い度い

放と思うのである。

A家とB家の婚約が成立する。それ〜〜の公民館に届出る。公民館より係の者が出向きA家の婚礼に招待する方々を相談する。之に従って公民館では麗わしく鄭重な結婚招待状を発送する。之は公民館の名に於てゝある。式は公民館で行うのであるが、定額の祝儀で語を替えて云えば会費制の祝宴である。公民館には之にふさわしい部屋も間取も出来ているし、什器も式服の用意もある。モーニングでも紋付き袴も振り袖も、之こそ三界一の花婿であり花嫁である。虫干等と云うことは古典的な語となるであろう。この合理化に依って出来た金を再生産資金を合理的に活用するよう邁進するので、之の前途と光明は見る可き物が有る之は一つにかゝって我々の決意に待つので、へき頭申した百万円の宝籤より命中公算は大である。

葬祭

生者必滅の法は動かし難い。原子力時代が来てもオートメーション時代が来ようとどうにもならない生れた時に死ぬ運命を背負って来ている。しかし時々思うことがある。こんな憂き世に死ぬことが出来なかったら死ねる薬は生きる薬程尊いに違いないと。死は永遠の開放地主と云うが、だが心配しないでもきっと死ねる。死は冷厳なる事実である。之の死に対しても亦結婚式と同様公民館に依って村人に送られながら旅立つのである

こゝまで書き来って思うことは近所隣のおつきあいのことである。私共がこの村に生活する限りいやどこで暮すとも二六時中ついて廻るのはおつきあいである。このことを忘れてはならない。この点に関してのこの相談や、御協議をお願いし**談**たいものである。

（視聴覚部長　今村清）

私の希い

小林まり

冬の間かたく凍っていた大地も昨日今日の暖かさにほぐれ、昨晩の雨ですっかりやわらかくなったよくみるともういち〜〜の草の芽が伸びて今年の成長をはじめている。寒い冬の間にさえも少しずついとなみを続けていたのである。私共の毎日も朝起きて夜寝るまで何も特別変ったこともなく、同じことをくりかえしている。

今日も夕方になれば菜を洗い御飯をたく。そうした時ふと心に浮かぶことはどうして人間に生まれてきて毎日御飯をたき、洗濯をし子供を育て、家族の世話をして過ぎてしまうのであるが、そうやって一生すんでしまう。それだけの人生では何とさみしいことだろうと。

一度死ねば再び生まれ出てくることはない。唯一度の人生であるそう思った時に、何とも云い様のないさみしさ味気なさにおそわれいつか涙が目に一杯になっている考えてみれば男の人は何か一つの仕事をもって大低の場合一生その仕事に打ちこんでゆく。職業を持てばそこに責任が生まれおのづから研究し進歩してゆく。女の人も子供を生み自分の身を省るひまもなく一心に養い育てるのではあるけれど、片時も側を離れなかった子供が小学校に上ってみると急に何か物足れでもした様な心持になる。中学ともなれば、親の批評をしたり時には反抗もする。そうなると子供だとばかり思っていた母親はこんなわけではなかったとがっかりする時もある。

それでも目に〜〜体も心も成長する吾が子を楽しみにしている中に子供達は結婚し一人前になる。こうなるともう一心につとめてきた目的は達せられて心を打ちこむことがなくなってしまう。

その時に何か心を打ちこむものをつかんでいなかった母親は、どんなにか張り合いのない生活をすることであろう。

近頃は幸いに学校のPTA、婦人会、公民館、その他で折々とよびかけ私共の心をひらいてくれる様な機会もあり、それ等の中にはこれは一生涯続けていきたいと云うものにめぐり合ったり又拾いあげることができるかもしれない。

高村光太郎の詩に

僕の前に道はない
僕の後に道はできる
あゝ自然よ
父よ
僕を一人立ちにさせた広大な
父よ
僕から眼を離さないで守る事
をせよ
常に父の気はくを僕に充たせ
よ
この遠い道程のために
この遠い道標のために

と。

立派なことは出来ずともどんな小さなことでもよい。一生かけて悔いないものを持ちたい。皆が一人残らず一番自分にふさわしいものを持ちたい。そうしたら小さな寄り合いも、おこたの茶のみ話も、家庭の中もどんなにか豊かに明るくなることであろう。これが今の私の切なる希いである。長野県婦人会文集「ふきのとう」より抜粋

桐林通用の紙幣について

塩沢正人

江戸時代に諸藩の領内で通用した紙札を藩札と云って金札、銀札、銭札、米札等の種類がありその名目は大抵銀銭又は銀札、銀券、銀切手、銀札、銭切手、米札、米幣、米切手とあるものが多く、又預札、預切手、預手形、楮幣とあるものもあります。そのうち珍しい名目を用いたものには産物手形、産物為替金手形、釣り銭の手形、人馬駄賃手形、預り手形、傘壱本、などと書いたのもあります。そしてこの藩札の発行は皆幕府の許可を受けてしました。

藩札は寛文三年福井の越前家で銀札を出したのが始めて次いで十年九月備前の池田家、それより元禄のはじめへかけて諸藩で作るものが多く、寛永四年十月幕府では禁止しましたが、享保十五年六月年限を期して銀札だけ許可しました。天保七年になって銀札の外に酒札等が行われ更に幕府の許可なしに銭札等を勝手に発行するようになりましたので重ねて銀札だけは使用を許すという令を出しました。

明治元年銀通用を停められ銀札は皆銭札に改め四年廃藩置県の際藩札は政府の負債として各藩ともに七月十四日の相場で新紙幣と交換しました。藩札処分の節の調査によりますと二百八藩、旗本知行所八所、三県にわたって四一〇、七二二、四八四枚これを新貨に改算して一七、五四六、四〇二円四八銭七厘に当った、と国史大辞典には記されています。尚その発行方法について日本経済史（本庄）を見ると大抵藩の札幕行の下に領内の資産家を札元として発行させ引換の任に当らせたもので兌換紙幣であることが原則でありましたが実際上は不換紙幣であったといゝます。領内通用が原則でありましたから旅行、取引に際しては多くの不便が起るわけであります。尤も信用のある札は自ら領外にも紙幣発行の理由は硬貨の不足を補つこと使用の便宜なこと等によるのでありましょうが実は藩政府の財政救済のために之を強行したことが大きくそのため札元へは一定の運上金を納めさせたり御用金を命じたりしています。

伊那地方の桐林通用にあたる紙幣は市村先生に伺うと上郷村の黒田で発行したものがあるそうです藩や知行所でなくて村で発行したものとして貴重な資料と思います

御芳志

左記二氏は公民館報費として御送金下さったので、厚く御礼申しあげます。

下諏訪町立町三　木下博氏
宮崎県湯郡都農町袋谷　中島義美氏

思うことを

小林こと

思うことを
感ずるままに話し合えたら
ほんとうにすばらしいと思う
人の顔色を伺うのでもなく
人の心をさぐろうともせず
素直な気持で話し合えたら
それは人の心に
針をさすような響でなく
ほんとうに自然で
おだやかな声で
はだかの心で
お互に話し合えたら
世の中の暗いかげも
少しづゝ消えてゆくだろう
何のこだわりもなく
私はほんとうのことを話し
合いたい。長野県婦人会文集「ふきのとう」より抜粋

農協五味技術員転勤

昭和二十九年四月から本村農業技術員として就任以来二ケ年余、農業指導の面に尽力せられたその業績は実に大きい。今度転勤することになり去る五月諏訪の四賀村農業協同組合へ赴任した。

随想リレー（第二十一回）所感

小林三郎

戦後何々の再建と云う言葉が数多く用いられた。再建と云う意味は非常に広い様に思うが最近特に経済関係の仕事を通じて農村経済の再建が如何に大切な問題であるかと云うことを痛感している。それは龍丘村のことを考えただけでも充分に日本農村全体に通ずるの面があると思うからである。例えば村内を歩いて見ても満足な道路や水路は数少い。道路は凹凸が甚しい。土手はズリ落ちている。水路には漏水がある。大雨があるたびに災害の心配をしなければならない。学校整備の問題にしても満足な施設も与え得ない等々、これらは何に基因するかと云えば農村の経済力の貧困から発して居るのに外ならない。無い袖は振れないから大切だと思うことも遂見逃してしまう。それが悪循環を繰返し後手々々と廻ることになる。そんな事実に対して大手術を行うとしても村の貧乏財政では手も足も出ない。国県の補助が相当ある事業なら格別、他は殆どが僅かな受益者の手による汗の努力に頼ると云うのが現状である。

では農村経済をいかにして向上させるかと云うことになるとこんな難しい問題はないが、要するに個々の農家の収入を増加することだから農業者にとっては余分に働くことによって或る程度達せられるような気もするが、それは根本的な解決法ではないと云うことは夫々に充分御承知と思う。

いつの時代でも左様だが、農産物価格の変動が直接フトコロに響く度合が大きい。例えば村内年間収穫量二万五千貫に対し貫当り二〇〇円の値下りがあれば邁奮がなくても村内で五〇〇万円の収入減となり優に二階建六教室程度の校舎が吹っ飛ぶ勘定になるのだから考えざるを得ない。又特殊な作物を導入しても相当に商業的な感覚がないと結局は取り残されてしまう結果になるし相当な量産も伴なって名実共に揃わないと市場に発言力が弱いと云うことになり、努力が報いられないと云うことも予想されるわけである。村内には独り立ちで充分新時代に処し得る農業経営者もあるが、それは必ず水田にしろ畑にしろ相当な耕地面積を持つものか、変った形態を取り入れて居る人に限られて居ると思う。大部分の人は何とかしなければと思い乍らも主として経済力の点でどうにもならず大勢順応的な動きになって居るのではないか？

そこで村の将来を常識的に考える場合、養蚕業は能率増進による単位生産量を飛躍的に増加させることによって市場の低落にも耐え将来他の産業と比肩せしめること米作は三〇年豊作以上を望むことは現状では困難と思うから裏作をどうするかと云うことだと思う。

次回のバトンを下平芳太郎先生に渡す。

時又合併研究委員会

時又では独自の立場で時又合併研究委員会を組織し、時又町に事務所を設けて盛んに研究し運動している。

松尾と単独合併をすることに反対し、合併に先だって中学校建設に調印することに反対した。

六月十一日区民大会を開きいよいよ区民の結束をかためるために区民より調印を求める事を申し合せた。ところが飯田田園都市が成立しそうになったので、十七日事務所を閉鎖することになったとのこと。

選挙管理委員会よりお願い

候補者の氏名を正確に

七月八日執行の参議院議員選挙は地方選出と全国選出との二種の投票が行われる。その為に当日本村では各投票所に於て最初に地方選出議員（黄色の投票用紙）の投票をしていただき次に全国選出議員（赤色の投票用紙）の投票をしていただくよう準備していますから候補者の氏名を正確に書き自分で必ず投票函に入れて下さい。

時又に医師開業

上片桐診療所の医師池村恒吉氏は病院を時又の天龍川辺に建築中であったが、このほど完成し、去る五月十五日開業した。尚池村氏は内科、外科の医師である。

編輯後記

農繁期に入る前に皆様のお手もとへおとゞけしたいと思いましたが、町村合併や凍霜害対策の問題等から発行が遅れてしまいました。

今月は長文が多く又、部員もお互に忙しい時に入ったので原稿の整理も充分出来なかった事をお詫びします。

次回の原稿〆切りは七月二十日迄と致しますから奮って御投稿下さいますよう御願い致します。

農村を生かさず殺さず式に経済力を持たせない様な政策が過去にとられたと云う時代もあったことであり今後のことは勿論わからないが、農家の収入が増加すれば生活の向上に通ずることであり農家の購買力が増加するから結局商工業を活発化することにもなることだから農業振興の問題は単に農業者のみの問題ではなさそうだ。

又新規に産業を導入する場合は何を選ぶかと云うことになるが、大別して畜産が園芸かに別れることになろうし、それを又専門経営にするか多角化するかと云うことは個々農家の状態によって当然変ることだと思う。特に園芸の将来については勿論推測の議論がなされているが、これが栽培には生産コストの点や競合耕作上から煙草と同じく集団栽培を前提としなければならない。